

「デジタル・アーカイブ速報」No.48

岐阜女子大学 文化創造学部
〒501-2592 岐阜市太郎丸 80
フリーダイヤル 0120-661184
URL <http://www.gijodai.ac.jp/>

岐阜女子大学大学院 文化創造学研究所(事務局)
〒500-8813 岐阜市明德町 10 番地 杉山ビル 4F
TEL 058-212-3257 FAX 058-212-3258
URL <http://www.gijodai.jp/graduate/>

デジタル・アーキビスト講習会 2010 in 沖縄

〈 日程：平成22年11月20日(土)～22日(月) 〉

「より実践的なアーカイブ技術を体得するために、沖縄の伝統芸能を中心にデジタル・アーカイブし、実践的なデジタル・アーキビスト教育へ繋ぐことを目的とする」として、上記の日程で沖縄にて現地演習が行われました。以下、その初日の模様を紹介します。

初日 11月20日(土) 講演・実演「沖縄の組踊」

講演：宮里祐光先生(岐阜女子大学特別客員教授)

演目：「二童敵討(にどうていちうち)」演者：小渡和道先生を含む立方8名、地謡7名

沖縄の伝統芸能であり国指定無形文化財でもある「組踊」。その撮影については、大学院生や学生を含めたメンバーで準備にあたり、講演・演習は一般の方々もお招きした中で行われました。折しも、撮影数日前にあたる11月16日には「組踊」がユネスコ無形文化遺産保護条約に基づく「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に掲載されることに決定したというニュースも舞い込み、関係者の関心が高まる中での演習となりました。

■ 9:00～14:30 会場設営・機材セッティング・リハーサル・事前説明



舞台より



調光室より

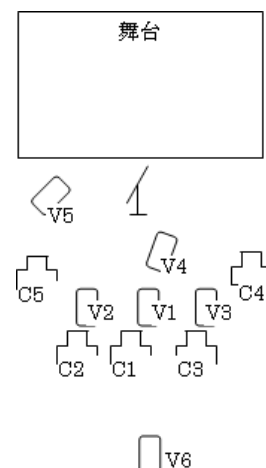


客席より

〈 使用機材の配置 〉

当初の予定では、従来どおり静止画記録用のデジタル一眼レフカメラと動画記録用のデジタルビデオカメラを、プレートを使って並列に三脚へ設置する方法を検討していたが、この方法だと一眼レフのシャッター音が動画に記録されてしまう。そこで、今回はそのシャッター音のノイズ軽減の為、並列用のプレートは使わず一眼レフカメラをビデオカメラの斜め後方へ離して設置することとした。

ビデオカメラは①舞台正面、②正面左、③正面右、④正面手前、⑤舞台袖、⑥調光室の計6台、一眼レフカメラは①舞台正面、②正面左、③正面右、④手持ち、⑤手持ちの計5台、録音機を舞台下中央に1台。一眼レフカメラ①～③は同時シャッターの為の配線をした。



■ 14:50 ~ 15:10 「組踊」についての講演

宮里祐光先生による「組踊」及び「二童敵討」の解説。以下、提示資料を抜粋した一部。



講演の様子 (宮里先生)

組踊は、台詞(セリふ)、歌(音楽)、踊りを三つの要素とした歌舞劇である。
 沖縄の伝統芸能が持つすべてが凝縮されている。

「組踊」の特徴
 * 音楽、舞踊、台詞の三要素からなる

組踊立方
 音楽に合わせて喜怒哀楽を踊りで表現。
 立つ姿勢や歩み、視線や顔の向け方などの所作は、琉球王国の時代に磨きあげられた琉球古典舞踊の動きが基本。

「組踊」の立方
 * 所作は琉球古典舞踊の動きが基本

台詞(せりふ)
 かつて沖縄で用いられた古い言葉。
 琉球王国の時代に成立した琉歌(りゅうか)を基本とし、独特の抑揚で唱えられる。

「組踊」の台詞
 * 8・8調や8・6調の琉歌を基調とする

地謡(じうてー)
 地謡(じうてー)が奏でる歌三線は、立方(たちかた)の心情を表現している。

「組踊」の地謡
 * 立方の心情や行動を音曲で表現

「二童敵討」(にどうていうち)
 この組踊は一名「護佐丸敵討」ともいう。
 1719年の尚敬王即位の時、重順之宴で初演された。
 登場人物は、あまおへ(阿麻和利)、供(一)、供(二)、供(三)、鶴松、龜千代、母、きやうちやこ持。

「二童敵討」について
 * 護佐丸・阿麻和利の変の史実が基になっている

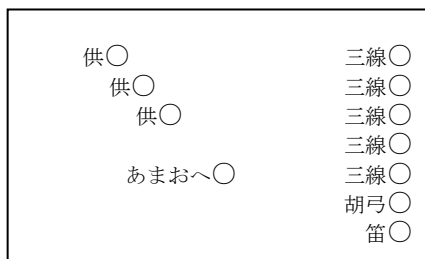
■ 15:15 ~ 16:00 「二童敵討」の実演

小渡和道先生を含む立方8名、地謡7名の先生方による「組踊 二童敵討」の実演。

以下に主な動きとあらすじを紹介する。(写真は◎調光室カメラより)

第1段

- ・拍子木
- ・音曲「按司手事」
- ・あまおへ 登場
 ☆見所〈七目付〉
 豪快さや威厳のある様を荒事で表現
- ・供 登場
- ・「按司手事」で退場



舞台

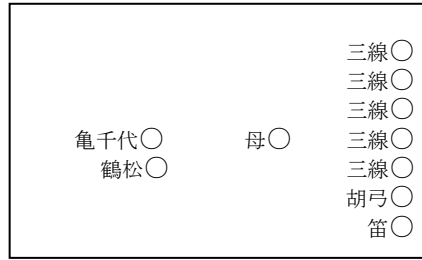
あらすじ

・天下取りの野望を持つ勝連の按司のあまおへ(阿麻和利)が登場。邪魔者であった中城の按司・護佐丸を首里に攻め滅ぼさせ、首里王府までも滅ぼそうと企んでいる。供に野遊びの準備を言いつける。



第2段

- ・歌「すき節」
- ・鶴松、亀千代(二童) 登場
- ・歌「仲村渠節」
- ・母 登場
- ・歌「散山節」
- ・歌「伊野波節」
- ・母 退場
- ・鶴松、亀千代退場



舞台

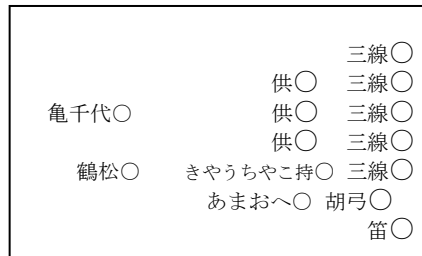
あらすじ

・護佐丸の遺児である鶴松と亀千代が登場。父の仇のあまおへが野遊びをする
と聞いた二人は仇討ちを決意し、母親へ告げる。母親から父の形見の守り刀(短刀)を受け取り、母子は別れる。大曲が3曲も続く聴きどころでもある。



第3段

- ・あまおへ 登場
- ・供 登場
- ・音曲「按司手事」
- ・鶴松、亀千代 登場
- ・歌「池武当節」
- ・歌「はべら節」
- ・歌「津堅節」
- ・供 退場
- ・音曲「三線・太鼓きざみ打ち」
- ・あまおへ 追われて退場
- ・追う 鶴松、亀千代 退場
- ・鶴松、亀千代 登場
- ・歌「やれこのしい節」



舞台

あらすじ

・あまおへが野遊びのため、供を連れて登場する。酒盛りをしているところへ鶴松と亀千代の二童は踊り子を装い近づく。踊ったり酒のお酌をしたりしてあまおへや供らを酔わせ、その褒美として団扇、太刀、着物をもらう。二童は丸腰になったあまおへの隙をつき、懐に忍ばせた短刀で父・護佐丸の仇討ちを成し遂げる。

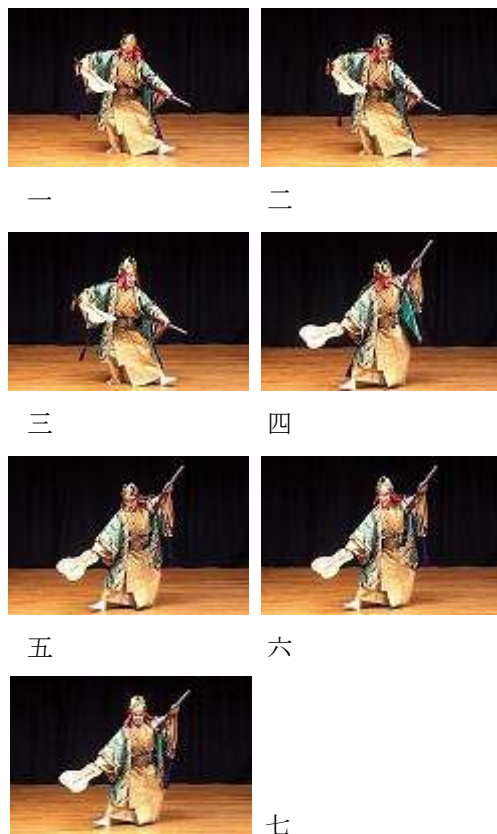


〈資料の活用例 — 見所の抽出 — 〉

☆七目付（ななみじき）

「二童敵討」の最初の見どころは、登場した阿麻和利が唱えをした後に派手に大見得を切る「七目付」の型である。それは「首里軍すらに、那覇軍すらに」というわずかなセリフの中で表現される。この七目付は歌舞伎の影響を大きく受けた演技と思われ、昔から阿麻和利を演ずる役者の技量はこの「七目付」のこなしで評価されたほどであった。

- 一 「首里」（しゅい）で強きうと同時に、右足を高く蹴るように上げて、下して屈めるとともに左足を開き、右手大団扇を右上に高く弧を描くようにして腕を曲げ、大団扇を胸前に止め、同時に袖をつまんでいる左手は太刀にかけてぐっとひねって、左下方へ強く突出し、瞬間、頭を左下の方へ強く突き出し、瞬間、頭を左へ傾け顎を胸元に深く埋めるようにし、面は右足下に向ける。
- 二 「軍」（いくさ）と言うと同時に面を左へひねって睨む。
- 三 「すらに」の唱えで左斜め前方へ顎を突き出して目をみはる。
- 四 「那覇」で左足を蹴るように上げて下すと同時に屈め、さらに反動をつけて前に屈めた右足を右へ開き、左手は太刀を掴んだまま内側に引き絞るようにグッと上げ、胸元にあった右手の大団扇を返してのばした右足の前方へ手を返すようにし、同時に頭を右へ曲げ、面を左足下を見下ろすようにする。
- 五 「軍」で面を右方へひねるようにして睨み、
- 六 「すらに」で面を右斜め前方へ顎を突出し目をみはる。
- 七 「すらに」で終わって直ちに面を正面にもどす。



〈今後の課題 — 提示方法 — 〉

「組踊」では台詞や歌詞に沖縄の古い言葉が使用されている。ある程度方言に親しんでいる者であっても、その内容を即座に理解することは容易ではない。その手助けとして字幕の利用が考えられるが、ここではその例として次の2つを紹介したい。

- ① 沖縄タイムス社 (<http://www.youtube.com/user/TheOKINAWATIMES>)
- ② UNESCO (<http://www.unesco.org/new/en/unesco/>)

①では上段に台詞を下段にその訳が表示され、②では下段に英語訳の字幕が表示されており内容の理解に役立っている。字幕の採用については、表示の有無、内容、位置などの検討を要する。

その他、所作や音曲、歌などについては演者や専門家の検証を経るなどし、資料の有効性も合わせて記録しておく必要がある。



①上段：台詞字幕、下段：訳



②英語字幕

(文責 宮里・加治工)